

## 4【自然の恵みと歴史を感じる水辺】

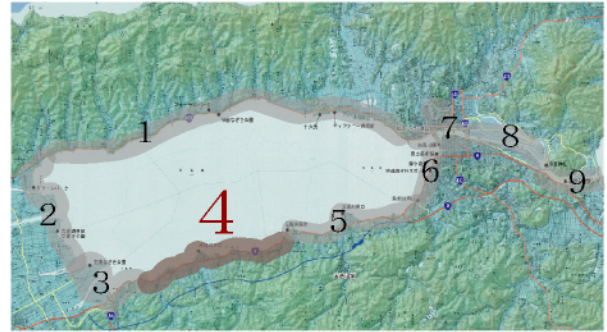
(宍道中学校～鳥ヶ崎付近)

キーワード：

{自然：宍道湖の恵み}

{人：車窓、舟だまり、シジミ漁}

{感覚：風情}



古くから自然の恵みを享受し、そこに暮らす人々の生活の息吹を感じられる場として様々な表情を見せる地域であり、また水辺沿いに移動する鉄道や道路からは、宍道湖独特の水辺の近さを感じる地域でもある。

湖畔を走る鉄道や道路からは、水辺の風景が期待できない商業や工業施設沿いから突然広く開けた砂浜やヨシ帯、湖面で揺らぐ水鳥など、水辺の風景への躍動的な変化を繰り返し愉しむことができる。

一方、背後地に抱える山地では、来待石が層を成しており、舟運の発達とともに宍道湖東岸で使用された如泥石（じょでいいし）を産出した歴史を受け継いでいる。

この、今も昔も変わらない人の営みと宍道湖との深い繋がりは、水辺が車窓間際まで近づくことで見える舟だまりや作業小屋、シジミ漁の風景からも感じることができる。

この地域は、場所によって異なる自然や水辺の土地利用状況から、それぞれの営みの特徴を汲み出した上で、いまの雰囲気を変えない風情に応じた取り組みを行う。商・工業用地を背後に抱える水辺では、ヨシ帯を整備することで無機物な印象を和らげ、湖の環境保全へと繋がるよう配慮する。砂浜やヨシ帯などが湖面と調和した水辺は、車窓からの視線を意識し、引き続き水辺環境の保全に取り組む。

また、背後に集落群を抱える水辺では、舟だまり周辺で砂浜やヨシ帯の保全・創出を行い、生活の中に潤いの水辺空間が溶け込むよう配慮する。





## 5【湖畔の旅情を深める水辺】

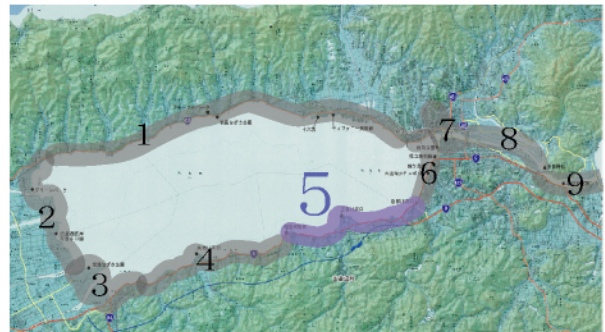
(鳥ヶ崎付近～忌部川河口)

キーワード：

{自然：温泉、水鳥}

{人：松江の遠景、宿泊客}

{感覚：旅情、癒し、くつろぎ}



年間約70万人の観光客が訪れる玉造温泉を背後に抱え、松江市街地に隣接するこの地域は、宍道湖越しに松江の街並みが見渡せ、霧の朝、宍道湖の夕日、松江の夜景なども楽しむことができ、少し離れたところからの水辺を感じさせる。

鳥ヶ崎は宍道湖の広がりを感じる事の出来る場所で、日差しを浴びた鳥たちの観察ができる。

旅人は、ゆったりとした宍道湖の遠景を眺めて旅情を深め、周辺にすむ人々は、ぼんやりと松江の都会や水に浮かぶ鳥たちを眺めながら、喧噪から離れた宍道湖の水辺で安らぐことができる。

この地域は、宍道湖の豊かな自然に都会の遠景が入り交じる景観を活かしつつ、地域の人々や観光客が憩い水と親しむことができる親水空間や砂浜などの水辺環境の創出に取り組む。

また、飛来する鳥たちを観察する場所として、最も相応しい場所のひとつである鳥ヶ崎周辺では、豊かな自然とふれあい、学習できる水辺となるよう水辺環境の保全・再生に配慮する。



## 6【移ろう夕日を愛でる水辺】

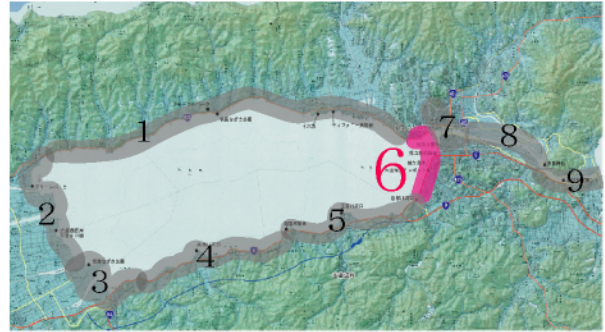
(忌部川河口～松江しんじ湖温泉)

キーワード：

{自然：夕日、朝霧}

{人：親水公園、シジミ漁、散策}

{感覚：憩い、集い}



小泉八雲をはじめとした、多くの文豪が愛した宍道湖の夕日を最も美しく望められる地域である。

水辺に整備された親水空間は、末次公園、白潟公園、県立美術館前、夕日スポットと带状に続き、都市の中における憩いの水辺として、地元の人々だけでなく、松江を訪れる県内外からの多くの観光客にも広く利用されている。

特に、夕日の見える美術館として知名度のある県立美術館前から夕日スポットにかけての親水空間は、休日ともなると多くの人で始終賑わう。

嫁ヶ島を前景に溶けゆく赤い夕日は、宍道湖を代表する風景としてあまたの人々の心を惹きつけるが、この付近では夕日の他にも、朝霧とそこに浮かぶシジミ漁、夜景、夏の花火と秋のハゼ釣りなど、時刻・四季折々に様々な顔を持つ。

その表情豊かな風景は、市民のみならず、国際文化観光都市である松江を訪れる観光客をも魅了して止まない。

この地域は、観光地としての魅力を今後も高めていくため、風景の中に馴染むのはもちろんのこと、湖岸の回遊、散策、憩いの場の創出など、観光客による利用をも意識することで、ふらりと立ち寄った誰もが使い勝手の良い、移動しやすい水辺空間を創出する。

また、近隣の都市部に住み働く各人が思い思いの時間が過ごせる街の中のオアシスとしての位置付けにも配慮する。

